

長屋談義　あの世はあるか

クマさん「ご隠居さん、いますかね～ いたら返事をしてくれね～か」

ご隠居「なんだね、いつものクマさんらしくなく いやに神妙じゃあないか。
なにか仕事で失敗して親方から叱られたのかね。」

クマさん「いや、そんな話じゃあね～んで、実はあっしの甥っ子がガンで死
じまっちゃったんでね、あっしがかわいがっていたいい野郎だったん
だがね～。前のご隠居さんの話であの世なんかね～んだろうなんて馬
鹿にしていたんだが、あまりにあっけね～んで情けなくてよ～、本当
に人間は死にまうとあの世へ行くんだろうかね～。」

ご隠居「本当にあの世があるなんて私だって行ってきたわけじゃあないからわ
からないよ。だけど自分の経験や最近も親しい友人や知人がなくなっ
たりして私も本当にあの世があって幸せな気持ちで暮らしているなら
いいなあ、と思うね。甥の方の冥福を祈るよ。」

クマさん「なあ、ご隠居さんよ、人間はなぜ生きるのかなァ、死んだらどうな
るのかなァ。」

ご隠居「そんな難しい問題を簡単には言えないし、人類の有史以来の悩みでも
ある。哲学者、宗教家などがそして最近では医師や科学者がこの問題
を真剣に追及してきたがまだそれらをすべて知ることはできないな。
でも私だって最近までのそうした解明への努力の跡を少しでも知りたい
と思ひ、いろいろ読んだりしているんで、それらの話をしてクマさん
の想いを少しでも慰められたらいいな、と思つて話をしてみようか。」

クマさん「ありがて～、難しい話とおもうけど、なるべくかいつまんでなし
てくれよ。」

ご隠居「そんな軽々と話せる問題じゃあないけど、まあ、私なりにいろいろな
説を紹介しながら話してみようかな。ところで改めて聞くがクマさん
は『あの世』の存在を信じるかね。」

クマさん「まだ死んだことはネ～からわからね～が、なんとなくあるといいよ
うな気はしているなあ。」

ご隠居「うん、まあ日本人の大半がそんな思いは持って居る様かもしれないが、
いざ私がああ世があると信じている、と話をすると目を丸くして驚く

人が多いんだな。つまりいまの唯物論的科学認識が死後の世界を観測や実証ができないからと否定されておりそうした教育を受けておりながら、生活の中では葬儀では故人の冥福を祈る、来世の安らかな世界に行くことを願い口にしたり焼香したりそのための法要を営んだりしているんだから言うことやることは大きく違っている。」

クマさん「だって、そりゃ風習になっていて義理でも葬儀に顔を出したりもしていることも多いし、あの世を信じてやっているわけじゃあね〜んだろうが。」

ご隠居「死を悼む風習は世界中、いろいろな形があるし、人の死は厳粛な想いを感じさせる大切なことだからだ。さっきあの世があると思うかね、と聞いたのは、あると考えることによってより豊かな生き方を創造することができるという『生きがいの創造』という本を書いた飯田史彦さんと言う国立福島大学の経営学部教授だった人がいるんだ。この人はあの世の存在、生まれ変わりの世界があるという考え方に立つと、生への意義を感じ、新しい生きがい生まれるということを実証し、研究発表を行ったんだ。これが本となりベストセラーにもなったんだ。」

クマさん「ふ〜ん、あの世があると思うと生きがい出来るってわけかア。いやに簡単な話だなア。」

ご隠居「いや、そんな簡単ではない。そのために飯田氏は、世界中の臨死体験や前世の記憶をもつ子供や、退行催眠による前世を知る方法など世界の著名な医師、研究者の研究発表を基にして自説を裏付けているんだ。」

クマさん「臨死体験て〜言うのは、仮死状態になった後で意識が戻りその間に見聞きしたことを話すってやつだな。テレビでやっているのを見たことがあるぞ。」

ご隠居「多くの研究者が世界中の事例を集めて、仮死状態、つまり脳の働きもストップした状態におちいったが奇跡的に蘇生した事例だが、その多くは自分の死体を見下ろしていた、光に包まれたトンネルを通過して花園のような場所へ行った、光に包まれた存在から帰れと言われて気が付いたらベッドで蘇生したといった話が一般的だ。これには医学的に反論も多く脳死状態でもホルモンの作用で幻想を見る可能性があるということで否定されている。しかし病棟の屋上に一足のハイヒールが残されていた、ドクターの頭の禿げを見たと聞いて医師がびっくりしたという話もある。屋上の靴は確かにあった。脳内の幻想としても意

識が肉体から離れなければ見ることはできない。ドクターの禿を見た女性は生まれつきの盲目だったからだ。」

クマさん「う～ん、そういえば日本人でも結構大勢体験者がいる様だったな。」
ご隠居「最近でも某自動車メーカーの重役が交通事故で重傷を負った際に肉体から意識が離れ自分で悲惨な事故状態を見下ろしていた、さらに様々な体験をブログで発表した。また 2 度にわたるすい星を発見し世界的に有名人である木内鶴彦氏は 2 度も臨死体験をして江戸時代の有名な書家の家を訪ねて、「つ」という一文字を書面に書かせて蘇生後に現代のその家を訪ねて確認したら先祖の書の中にあってはならない場所に「つ」の文字が残っていて先祖の謎として伝えられていたという。さらにアメリカで一番有名な医師であるアレクサンダー脳外科医は様々な賞も得ており海外でも知られている人物で、これまで超常現象や臨死体験などを否定していた人間であった。それが細菌性髄膜炎となり脳を侵され昏睡状態が幾日も続き、担当医師が死を宣告する寸前に奇跡的に蘇生した。そして昏睡状態の間に見た様々な話をし、さらに自分の病気の状態を専門医の立場で検討し脳の状態がホルモンを出して幻覚を見られる状態でないことも確認しており、それを『脳外科医師が見た死後の世界』という著書として発表し世界中での評判となりアメリカだけで 200 万部売れたというんだ。」

クマさん「え～、やっぱりあの世ってあるのかなァ。なんだか急には信じられね～なァ。」

ご隠居「日本の学者で脳動脈瘤手術の世界的権威である佐野公俊氏は、脳の再起動現象ではないかというんだ。それは蘇生の直前に起こる一時的に機能が停止していた脳が意識を回復する際、それまでの古い記憶が支離滅裂に放出されることがあるという。それが臨死体験をしたと錯覚させているのではないかというのである。」

クマさん「なるほど、そういう場合もあるんだ。」

ご隠居「だけどアレクサンダー医師は昏睡中に病室で見たのは 5 人だったと記録したが、蘇生したときにいたのは担当医、妻、その妹の 3 人だったので直前に居た人を夢のように見て居たというが違いと主張、さらに昏睡中に見知らぬ女性から帰るように言われて蘇生したが、調べると自分が会ったことがない亡き妹だったことが後に判明しているんだ。つまり博士が幼いころ養子に出されたのちの実母が生んだ妹でもう亡

くなっている人の写真を見せられてわかったんだ。」

クマさん「つまりあの世があって、そこで生前に会ったことのない妹さんに出会ったというわけか。」

ご隠居「そうした事例は世界中に山のようにある。先ほどの『生きがいの創造』の本でも飯田氏が紹介しているキューブラ・ロスという有名な研究家は、『事実にあることを研究して発表しても認めたくない人は一杯いる。それを無理やり認めさせようなんて考えても仕方ありません。そうした人もいずれ死を体験するのですから』と皮肉たっぷりに言っている。さらに高エネルギー物理学で世界的権威であり、NASA の主任研究員も務めた桜井邦朋教授も『科学的法則や理論と言うのは経験した現象に対する解釈に過ぎない。観測結果を合理的に説明するための解釈に過ぎない。』と言った言葉を紹介しながら多くの科学者が理論に合わない現象があると、そんな現象はあり得ない妄想だと片づけがちだ。現象があるところには必ず未発見のエネルギーがあるかもしれない、と謙虚であるべきだと言っている。」

クマさん「なんだか難しくなってきたなあ。だけどなんとなくわかるような気がするなア。もう少し話してくれね〜かな。」

ご隠居「退行催眠と言う療法があるんだが、これは臨床医学にも用いられているんだが、原因不明で治療が困難な患者を催眠療法でその病気の元となった時にさかのぼって体験を話させると内蔵疾患や精神病などが治るんだ。時には生前までさかのぼって何回もの転生の話を思い出させた事例もあるんだ。あるとき担当医師がその人生で生まれる前に戻ってくださいと指示したとたん、患者が光のある空間にいるとか、自分の名前はない、とか高貴な存在から生まれなおすよう指示されたとか、の話をするようになりそれが“あの世”を示唆していることに気付いたわけだ。」

クマさん「へー、生まれ変わりを再現できるんか〜」

ご隠居「しばらく前に静岡に居た脳神経外科医の S 医師の話も載っているんだ。市内のある中小企業の社長が腎臓を悪くして S 医師による退行催眠の事例があるが、この社長の前世はスペインの沿岸漁業をやっていた船長だったが、人使いが荒く船員の反乱で殺し合いとなり、やがて嵐となってマストに体を縛っていたが船が沈んで死んだという状況が生々しく語られたんだ。腎臓が悪いのはその時の傷が腎臓を傷つけていたというんだ。」

クマさん「すげ～、生々しい話だなア。それで生まれ変わったのが今の日本で社長をやっているというのかア。」

ご隠居「その時の船員が今の母親や従業員となっているというんだ。」

クマさん「え～、そんなことがあるのかなア。」

ご隠居「退行催眠と言うのは、過去世を思い出し、それによって現在抱えている悩みや通常では原因のわからない病気などが癒されるという。そうした療法の一つだ。こうした事例も世界中にたくさんあり、インドのある少年は自分の生まれ故郷の町（それはバングラディッシュ）でそこで殺されたというあまりの繰り返しに親と一緒に町を訪れ、本人の証言通りの状況があり結果、殺人者が逮捕されたという話もある。」

クマさん「やっぱり生まれ変わりってのもあるのかなア。そういえばあつしも子供のころお袋から、死んだ人の傷が別の生まれた子供にアザとして残っていて死んだ人の墓を供養したらあざが消えた、なんて話を聞かされたことがあったなア。そんな話が伝説のように伝わっていたんだな。」

ご隠居「クマさんもなかなか察しがいいんじゃないか。死後の世界については多くの世界で話として伝えられているが認めても生まれ変わりについては信じられないと言う人もいるな。特にキリスト教徒の場合は原始キリスト教の時代は認められていたようだが、ローマ時代になると天国と地獄しかないということで聖書からも削られてしまっている。」

クマさん「あの世と天国ってところと一緒なのかね。」

ご隠居「天国とはキリスト教の教義であって神様の居るところだ。人が死んだら土に還るが最後の審判のときに復活して天国へ迎えられる人と地獄へ行く人に分けられるというんだ。」

クマさん「それじゃあ、死んだら靈魂の世界へ行くんじゃないかね～のかね。」

ご隠居「それは私もわからない。ある牧師に聞いたけど人は死んだら魂などは残らないって言い切っていた。別の牧師は長いこと地下で眠っていて審判の時天国へのぼっていくんだ、というんだ。それと科学的な研究材料としてのあの世とは違う。簡単に言えば死後の世界と言うのは一つの間ではない。意識の世界だから自分が死んだことがわからないでこの世に強い執着を抱いている人などが死ぬと光の世界まで到達でき

ないでいわゆる自縛霊、浮遊霊といわれる低次の存在になる場合がある。そうした人と波長が近いと感知される場合があるようだ。」

クマさん「へー、それが幽霊ってやつかな。そんなのに出くわしたくネ～な。」
ご隠居「まあ、不安な気持ちがそうした意識を招いてしまうことがあるから日ごろから気持ちをしっかり持っていることも肝心だ。もし幽霊に出くわしたら“あんたはもう死んでいるんだからもっと上の光の世界へ行ったほうがいいよ”って言ってやるんだな。福島氏の説を紹介しているのも、死後の世界がある、生まれ変わりがあるという考え方を認めることによって自分の在り方、生き方、生きがいが生まれると言うところに意義があると言っただろう。たとえばクマさんはいま職人として腕は確かで定評があるし、子供も丈夫に育てているけどもしかしたら前世では外国の大金持ちで大勢の使用人を酷使し、あこぎな生活をしていたのかもしれないぞ。そして死んだら指導霊が反省してもう一度人生をしっかりやり直して来い、と言われて今度はつつましく生きるという宿題を持っていまの両親を選んで生まれてきたのかもしれないぞ。」

クマさん「え～、あつしが前世では大金持ちだった？全然そんな実感はね～んだがなあ。」

ご隠居「たいていは生まれるときに記憶を消して生まれるそうだ。だから今度の人生はつつましく生きるんだという宿題を果たすために生まれてきたんだ、という自覚が生まれたら自分の人生の意義はもっと深くなるんだ。」

クマさん「なんだか、わからね～が今の暮らしは自分が選んだ宿題だということのかア。もっと金持ちか偉い人になるような人生を選んで生れてきたかったなア。でも自分で決めたんじゃあ仕方がねーとあきらめもつくか。」

ご隠居「クマさんの前世は私が勝手に言ったことなんだが、生きがいの創造の説ではこの世は魂の研修、修行の場であり、生まれてくるときに自分の宿題をみんな自分で決めてくるんだという。仮に赤ん坊や子供の時に死を迎える場合もあるが、それも必ず本人の目的や意義があるというわけだ。」

クマさん「え～、そんな親、兄弟を泣かせるような宿題を持って生まれてくるやつがいるんかいな。」

ご隠居「自分が死ぬことによって親が人生の意義について目覚めさせる場合も

あるだろうし、それは魂レベルでの親の霊魂を磨く役割を持っていたのかもしれない。」

クマさん「そんな残酷な話じゃあ生きがいは感じられね〜な。」

ご隠居「トロント大のホイットンという教授は、退行催眠を何百例も研究した人だが、この事例の場合は親と子が前世では逆転していて、人の気持ちや悲しみをわかろうとしない子の霊魂の修行のため今度はその子の子供として生まれて、悲しむということを学ぶきっかけを作るという宿題を持って生まれてきた事例だというんだ。」

クマさん「う〜ん、ほんとかなア。にわかにはうん、そうだとも言えね〜なア。」

ご隠居「別にすぐに信じてくれなくてもいいよ。私だってあの世を見てきたわけじゃあないし、クマさんに伝えたいのはそうした霊魂の世界があるという考え方を肯定できると生き方が変わるんだということだ。だって死んだら単なる炭酸ガスなどや灰になってしまう、というのが現代科学の正統派の考えだ。それに対していまや科学者の間でも宇宙や物質世界を究明すればするほど見えない世界があるのではないか、と言う考えが広がっている。たとえば宇宙は小さな極微粒子がビッグバンによって宇宙ができたとか、宇宙の物質はたった4%しかなくてあとは測定不能のダークマターやダークエネルギーが96%を占めているということが宇宙観測上言われている。最近では今の我々がいる宇宙がたった1回だけの発生しかないという方が不自然で、宇宙の外は別の宇宙がギッシリ詰まっているという説が出ている。」

」

クマさん「へー、宇宙ってそんなに訳のわからんものかア。それに比べりゃ人間なんかチッポケナもんだなア。」

ご隠居「ところがいまアメリカのモンロー研究所と言うところで開発されたヘミシンクという技術で死後の世界を探訪し、宇宙を探索することができる技術ができています。これは二つの異なる波長をヘッドフォンで聴いていると脳の変調波が生じて人間の深層意識からさらにそれから離れて死後の世界へ意識を飛ばすことができるというわけだ。」

クマさん「そんな技術であの世を訪問できるなら死んだジーさんに会うこともできるんだな。」

ご隠居「ところが死後の世界と言っても、さっき言った浮遊霊の世界、特定の宗教の信念集団や戦争集団で自分が死んだことも自覚できず自分たち

の信念の世界に固執している場も途中にあるようなんだ。さらに一般的に死後の最初にいる場所でも生前の想いで花園のような場所にいると思う者、なにか光に包まれた場所だと思っている者、生前と同じような都市に到着したと思っている者など自分の生前の観念に影響を受ける様だ。私も CD を試してみたんだがあの世どころか座禅の真似事をやった程度の心境を得られるどころか気持ちよく寝てしまうがね。」

クマさん「じゃあ、先に逝った者と会いたくても難しいようだな。」

ご隠居「ヘミシンクの技術もただ聞いていればいいのではなく、呼吸法やアフメーションとって特定の自己暗示のための言葉を口に出したり、雑念をブラックボックスへしまうためのイメージトレーニングをやったりしての訓練が必要なんだ。」

クマさん「なんだ瞑想をしたり、お経をあげたり、イメージトレーニングをやったりかあ。それじゃあ仏教の修行みたいなもんだな。」

ご隠居「クマさんもうまいことを言うなあ。古代の修行僧やチベットの高僧が瞑想を重ねて地球外へ意識が出て地球を眺めていたとか、死後の世界を垣間見て記録に残したのが経典として残っているのかもしれない。実際にチベットの修行僧がモンロー研究所へやってきてヘミシンクを試したところ、何十年も瞑想をして到達できた心境にわずか数日で到達できたと驚いていたというんだ。」

クマさん「そんな技術が広がったらみんな悟りの心境になってしまうんじゃないかな。」

ご隠居「そうだったら素晴らしいことだが、日本でも半導体技術者であった東大物理学卒、トロント大電子工学院を出た坂本政道と言う人が日本でこのヘミシンク技術の普及に取り組んでおり、この人の『死後体験』Ⅰ～Ⅲはいずれもベストセラーとなっている。まあ、いまの日本人は仏教国の割にはアメリカ人より死後世界などを信じる人は少ないということだった。アメリカは過半数以上が信じており、日本ではまだ38%程度との調査報告がある。それでも1958年ころは半分の20%だったから急激に増えている様だな。2013年は40%となっている。(日本人の国民性調査)」

クマさん「なるほど、あの世を信じている人は毎年増えているのかア。おもしろ～な。だけどあの世って言ったって、いくつもの場所があるんじゃないか」

あ会いたい人と会えるかどうかわからね〜んだろ。」

ご隠居「いいところを突いてきたな。ヘミシンクで死後世界を探索した坂本氏の報告では戦国時代でも、前の戦争時代なのか、時代ははっきりしないが戦争を続けている世界があるそうだ。そうした人たちにもう死んだのだから戦いはやめて上の方に光の世界があるから上がっていったらとアドバイスをしている場面があるんだ。そのうえにもさらに上の階層があるようなんだ。死者も生前の強い思いを抱えていると波長が合わず出会えない場合もあるそうだ。私も早く亡き妻に出会いたいと思うことがあるんだが、今の世で迷ってばかりいるとそちらの場所へ行って出会えないと困るなあ、という思いもあるんだよ。」

クマさん「へー、ご隠居さんも迷いばかりであの世へ行ったら迷子になってしまうのかなア。やっぱり修行しなければだめなのか〜」

ご隠居「仏教では涅槃の世界へ瞑想など自力修行で身を修め行けることを願うようだし、また他力行では南無阿弥陀仏の声明や南無妙法蓮華経の題目を上げて信心を高める宗派もある。ユダヤ教やイスラム教のように異教徒や教敵を滅ぼすことが神への忠誠であり天国へ迎えられると信じている宗教もある。いま問題の『イスラム国 IS』の兵士などは女性に殺されると地獄へ行くと思っており、クルドの女性兵士部隊が来ると逃げ出すそうだ。いずれにしても既存宗教の偏狭さは当初の創始者（教祖）の宗旨を変えて多くの人を惑わせていることが多い。」

クマさん「世界では一神教の信者同士が殺し合いをやっているし、キリスト教だって民衆を支配し異教徒を弾圧し、アジアやアフリカでは植民地支配の道具としてきたんだろ。あっしはどうも宗教に深入りするのはゴメンだな。」

ご隠居「私も同じだよ。だけど宗教と科学がまだまだ相性が悪く、とても一体となって人間の苦悩や問題を解決していく方向とは思えないんだろ。しかし科学者の側では素粒子物理学の超ひも論などを展開する人からはあの世とはこの物質世界と時間も一切の情報もすべてを畳み込んでいる無の世界について解明しようとして居る人もいるんだ。」

クマさん「なんでい、その超ひもってのは、」

ご隠居「超ひもの大きさは 10^{-35} [m] といわれ、原子の大きさの 10^{-10} [m]と比べてもとてつもなく小さいもので、現在、素粒子は数百種類あるが、これらは1本のひもで説明できると言うんだ。このひもが振動すると

き振動数の異なる波が生じるがこの1つ1つが素粒子に対応するというものだ。そして宇宙はこのようなひもが真空中に詰まっているというわけだ。この真空が何もないのではなく、宇宙のあらゆる物質やエネルギー、情報も生み出すことができるそうだ。それがいわゆるあの世と言っているわけではないが、そうした状態は別に地球の外や宇宙に漂っているわけではなくてわれわれがいま生きているこの世界にも浸透しているというわけだ。

クマさん「なんだか、難しくてわからね～や。要するに物理学者の云う真空は仏教でいう無の世界とかあの世とかが似たり寄ったりか、おんなじだっていうわけかア。」

ご隠居「なかなか察しがいいな。まあ、素粒子物理学の発展を今後に期待するが、そうした科学者の間からもあの世のことを解明しようと言う人が現れているということを知っておいてもらいたいんだ。そこでさっきのヘミシンクの話に戻るが、死後の世界もいろいろな階層があるというんだ。つまり死後の世界へ戻ると勉強が足りないと生まれ変わって別の勉強をするためにこの世に生まれてくると言っただろう。地球は物質世界のためいろいろな災難がいっぱいあり、病気になったり、災害にあったり、犯罪に巻き込まれたり悩みの種は尽きない。だからこの世は修行に向いているというわけだ。つまりこの世で生きているだけで様々な修行をしているんだ。それをもっと自覚的に行うともうこの世に生まれず人間を卒業する段階もあるようなんだ。」

クマさん「あっしなんか苦勞ばかりだからもう早く卒業して～もんだがなア。」
ご隠居「重度障害者としての生き方を選択して生まれてきた人は卒業が早いよ
うだ。おそらく前世では相当な修行を修めて生まれてきたのだと言わ
れている。」

クマさん「いろいろな階層って言ったけどどんなものなんだ。」

ご隠居「早く言えば、地球生態系、太陽系、銀河系、銀河群、超銀河団、さらにそれらが網の目のように連結してグレートウォールと名付けられて観測されているがそうした宇宙の成り立ちがあるように、靈魂のグループがあり、そのうえにはさらに大きなグループがあると坂本氏は言っている。そうしたグループごとにリーダーである指導靈もいる様なんだ。だけど私に言わせりゃあエホバ＝アラー（神の意味）はせいぜい人格神だから他の宇宙からやって来た靈魂が靈媒であるアブラハム

とかムハンマドなんかに移り移ってあれやこれや指図をしたんではないのかな、と思うね。あまりにも焼きもちですぐに怒るし自分しか信じるな、他の神を信じるものは殺せ、なんていう神様なんておかしいんじゃないかな。」

クマさん「へー、ユダヤなんかの神様なんてそんなものかア。」

ご隠居「私は創造神と言うのは、サムシンググレート（なにか偉大なるもの）であって宇宙の摂理のことだと思うね。けっして人格をもつ意識体ではないと思うな。でもそんな私だって自分のつたない経験の中で次第に意識界のことを考える様になったんだ。」

クマさん「自分の経験ってどんなことだね。」

ご隠居「うん、もうだいぶ昔の話だが私の妻が急死したときには、朝は元気を出かけたのに夕方病院に行った時にはもう心肺停止状態で、AEDで無理やり心肺を動かしたんだが結局三日三晩続いたが駄目だったんだ。私はそばで泣いたり祈ったりしたんだ。そのころ読んでいた超自然的に奇跡を起こす宗教指導者が死んだものを呼び戻したりしたという話を読んでいたので藁にも縋る思いで願ったり祈ったりしたもんだ。」

クマさん「へー、そんなことがあったんで、それでどうなったんで。」

ご隠居「その願いがかなわず、その後しばらくはそうした本などをすべて捨ててしまい、奇跡なんてあるものかなんて考えて厭世的になっていたんだ。ところが・・・」

クマさん「ところが・・・」

ご隠居「1年経って娘夫婦や相手の両親、孫たちと食事に行ってカラオケをやったりしたため久しぶりに大変いい気分になったんだ。その帰り道、私は3歳の孫を乗せたベビーカーを押して先を歩いていた時に“ああ、こんなに楽しんでいていいのかなあ”なんて自問したときだ、毛布をかぶって寝ていた孫が突然毛布をはねて“じーじ 心配しなくてもいいよ！”って叫んでまた毛布をかぶって寝てしまったんだ。」

クマさん「へ～、そんなことがあるんかいね～、でも孫がご隠居さんの声を聴いてこたえたんじゃあね～のかなあ。」

ご隠居「いや、私は心の中で自問したんで声は出していなかったよ。それに3歳の孫が仮に聞いていてもそんな反応するかね。深層心理学ではシン

クロニシティといってユングと言う世界的な精神分析学を開いた学者の説だが『意味のある偶然の一致』とか『共時性』というんだが、私はこれはいままで人には言わなかったが“亡き妻からのメッセージ”だと思ったんだ。」

クマさん「え～、なんかスゲ～話じゃんか。それでご隠居さんは“あの世”を信じる様になったんだかね？」

ご隠居「いや、むしろユングの心理学の解説とか伝記などを読んで真相を科学的に理解することが大切ではないか、なんていっぱい思ったわけだ。するとユングなども深層意識がさらに拡大してというのか肉体を離れて遠くの人に会ったり、宇宙空間から地球を見下ろしたりする体験をしているんだ。そうすると人間の意識は肉体とは別にあるんじゃないかと思ったんだ。」

クマさん「それでだんだん“あの世”を信じるようになっていったんだ。」

ご隠居「そう簡単でもない。むしろ宇宙物理学の解説を読んだりしていくうちに『波動性科学入門』という本と出会い、人間の意識は原子にも波動があり、素粒子にも波動があるんだからそうした波動のハーモニー（複合）が意識体を形成しているという話にのめりこんでいくんだ。」

クマさん「なんとやっかいな話だなあ。それでどうなったんで。」

ご隠居「著者の大橋さんと言う方はもう亡くなっているが静岡の人で学者じゃあないんだ。けどとても緻密な実証的な展開で、日本のいわゆる正統科学界では無視されていたが、水の波動科学など全国の多くの在野の研究者に影響を与えているんだ。最近、ホーキングの話などを読むと学会ではもはや科学ではなく哲学だと批判されている様だが、かなり大橋説と似通ったところがあるなと思うね。」

クマさん「ところで“あの世”はどうなったんで。」

ご隠居「そのころ、ソニーでCDやアイボの発明を担当した元重役が『ここまで来たあの世の科学』という本を出したんだ。これは素粒子物理学の研究を紹介しながら人間の意識が人間の肉体と同居しながらさっきの超ひも論の世界では、あの世は10のマイナス34乗以下の極微細な空間で、人間が生活する4次元の世界に重なって存在しているというんだ。しかしこの人の意見では人間の魂は独立したものではなく、大きな階層があってそのかけらのような一部分がいわゆる“魂”として

の意識体だというんだ。」

クマさん「そんな大企業の幹部がネ～、面しれ～なア。」

ご隠居「彼はボームとか、フリッチョフ・カプラ、ジェフリー・チューといった世界的な素粒子物理学のリーダーたちの説を引用しながら、さっき言った精神分析学の泰斗であるユングの体験や研究を引用しながら“あの世”についての仮説として整理しているんだ。それをごく簡単に言うなら、さっきの微細な空間に過去も未来もあらゆる情報が畳み込まれているというんだ。そうした意識波動がこの世においても何らかの現象を起こすこともありうるというんだ。それを超常現象といわれるものと重なる場合もある。つまり、あるときは光の映像として、また音源や物理現象として現れる可能性がある。もちろんインチキな話も多くあるようだし、そうした話でだまされてはならないがね。」

クマさん「なんだか、またまたえれ一話になってきたなア。もうちっとわかりやすい話にしてくんね～かなア。それでご隠居さんも“あの世”があると信じるようになったってわけかア。本当に“あの世”はあるのかね～。」

ご隠居「いや、あるかどうかは行って見なければわからないとさっき云った通りだ。だけどクマさん“あの世”があるかどうか私とカケをやらないかね。私はある方へかけるとしよう。クマさんがないほうだとすれば絶対にカケは私が勝つよ。」

クマさん「なぜだね。」

ご隠居「いいかね。あの世がなかったらクマさんは自分が勝ったことを主張することもできない。あれば私はクマさんにやっぱりあったんだろうと勝ちを宣言できる。」

クマさん「なんだか、一方的じゃあね～か」

ご隠居「これも飯田先生の『生きがいの創造』の話さ。さっき話した臨死体験はもちろん退行催眠、前世を語る幼児たちなど人間の意識体（たましい）は死んで肉体から離れても存在し続け、いわゆる“あの世”が本来の居場所で、そこで肉体を持って生きた人生を振り返りながら、指導霊のアドバイスを受けながら再度この世に戻ってくるのは魂を磨く（修行）ためだという様々な事例を紹介しながら自説を述べているんだ。」

クマさん「死んで“あの世”で暮らして、また生まれ変わりっていうやつかね～。そんな話が本当にあるんだか。」

ご隠居「飯田氏は、たましいがあるかどうかを探るのが目的ではないし、専門ではないと慎重に断りながら、人間には魂があり死んでも意識存在は残るんだとの科学的研究成果を信じれば、この世で生きる人生を大切にしようという意識が芽生えてくるし、大切な人を失ってもやがて会えるんだという生きる意欲になるんだと言っている。事実この本を読んで生きる意味を失った人、愛する人と死別する悲しみで落ち込んでいる人たちに大きな勇気を与えたんだ。」

クマさん「ふ～ん、そんなにうまくいくもんかなア。」

ご隠居「飯田氏のところに何千通と言う手紙が届いているんだがある中間管理者の手紙が載っているので一つ紹介してみよう。“今までは、『死後の生命』とか『生まれ変わり』については、信じるどころか、否定する立場でした。しかし、先生の論文に接し、肯定する生きの方が、人が変わり、生きがいを感じる人生となることに気が付きました。これからは、自分の家族の生きがいとは何かを考え、プラス発想の人生を送りたいと思っております。社長や部下にもコピーして読ませています。”といった反応が大部分なんだ。」

クマさん「それでご隠居さんもそのうちの一人かね。」

ご隠居「ああ、そうだね。もちろん飯田氏の本だけでなく、海外の人の本を読んだり、臨死体験者たちの手記を読んだりして確信を深めた感じはあるな。だけど気を付けないといけないがネット通信なんかでもたくさんそうした話が載っていて、なかには怪しい金儲けのビジネスにしているものもたくさんあるんだ。その延長で宇宙人との会話ができるとか、“あの世”の意識界にも独善的な意識体があり、宗教上の神様なんて言って人間をだまして意識体もあるんじゃないかと思うね。だいたい自分が宇宙を作ったなんて言って人間と直接交信するような意識体が創造主であるわけではない。」

クマさん「お～、ご隠居さんらしい皮肉がでたなあ。待ってましたってとこだ。」

ご隠居「そんな、冷やかすなよ。私は真面目な科学的な研究を行う医師や物理学者などが勇気を奮ってこうした見解を発表することには感銘を受けるが、怪しげなチャネラーを称して多くの人をだますヤカラは許せないぞ。それから“たましい”を否定しながら神の存在や極楽浄土を語

る神父、坊さんのたぐいもあまり好きになれんな。」

クマさん「やっぱり、そうきたか。カネばかりふんだくるクソ坊主はあっしだってで～きれ～だ。」

ご隠居「宗教家の中にも立派な人は多いんだろうが、科学の発展に乗り遅れて宗教ドグマに閉じこもって、本当に悩める人たちのこころの救済になるような話の出来る宗教家は少ない感じだなあ。日本では葬式宗教になって形骸化している様相が多く、さいきんでは葬儀社の下請けの観すらあるじゃあないか。宗教家もほんらいの民衆の魂の救済家にならないと民衆の側から見捨てられてしまうんじゃないかと思うね。」

クマさん「ところで、あっしの甥っ子はホントにあの世で生きているんだかね～、残された家族もかわいそうだし、あんな元気だった若け～衆があんまりあっさり逝ってしまったんじゃないかあ情けなくて仕方がね～んだ。本人だってまだまだやり残したことがあるって言っていたんだ。」

ご隠居「そうだろうね。良寛さんのような修業を積んだ人だって生身の人間で、死別の悲しみは消せなかった。さきほどの『生きがいの創造』でも紹介していたが早い死にも何かの意味があったんだ。家族の愛を知ることだったかもしれないし、残された家族に強く生きていくための試練を感じさせるためだったかもしれないんだ。一人の死は残された者たちに世の無常を悟らせるし、残る自分の人生を大切にしようという決意を促せるかもしれないんだ。それはこの世に肉体で残るものにはわからない深い意味が隠されているというんだ。」

クマさん「ふ～ん、そんな考え方があったなんて知らなかったなあ。じゃあ甥っ子はなんだってはやく死んじゃまっちゃったんだろう。」

ご隠居「これも本の受け売りなんだが、この世に生まれてくるときは自分がどんな宿題をやるのか目的を決めてそれに合う親の元に生まれてくるらしいんだ。それは同じ国の場合もあるし、はるか別の国の場合もあるそうなんだ。おそらくガンと言う病に国を挙げての取り組みを高めるよう促すためかもしれないし、もっと深い別の意味を持ってきたかもしれないんだ。だけどそれを予定して生まれ、そして今はあの世から愛する家族を見守っているんだ。そうした場合“あの世”は人間社会での時間の概念はないようだから、再び会えることを知っているし待っているんだが時間は感じない。」

クマさん「う～ん、そういうもんだかね～ そう言われてもそうかなあと素直にゃあ聞けね～が。だけどあの世では痛いなのなのと言わずにのんびりやっているんだろうな。」

ご隠居「そりゃあ、間違いないよ。そう強く思っていればいいんだ。向こうでは生きてる居る者たちを温かく見守ってくれているんだ。だから心の中で祈って居ればお互いに通じ合えるさ。最近東大病院の集中治療部長の矢作直樹医師（東大医学部教授）も、『人は死なない』と言う本で“魂は肉体を離れても永続する”というんだ。アカデミアのなかでもこうした説を述べる様になってきているんだ。」

クマさん「なんだか、あつしも安心したような気分になってきたなあ。やっぱ残されたあつしらがしっかりして生きていかなけりゃあ、あつちでも落ち着けね～だろうな。」

ご隠居「そうなんだよ。クマさんもわかってきたようだね。いいかね、もう一度言うけど人間には意識体という微妙な波動の集合体でできた魂があるんだと考えられているんだ。それはやがて新しい肉体を得て転生するんだが、超高度に磨かれた意識体は物質界には転生しなくなるんだ。もつともそうした高次の意識体も物質社会の人間を救済するためにこの世に出現する場合もあるらしい。キリストとかブッダと言う事例はそれだ。だけどそうした指導者の出現に依存し待ち続けるユダヤ教信者のようでは情けない。一人の救世主でなく多くの人間が魂の存在に目覚めると世の中は変わる。物質社会は仮の世であり富を独占するために人を欺き、裏切り、妬み、殺したりする生き方はあの世に戻って深い反省をさせられ、次の生ではかなり過酷な人生をせざるを得なくなるのが輪廻転生なんだ。」

クマさん「なんだか、むかし聞いた説教みたいな話だなあ。」

ご隠居「世界の多くの説話の中にそうした話が出てくるのは、むかしも臨死体験や厳しい修行の中でそうした世界を見聞きした修行者がいてそれを残したのが教典のなかに入っていたということだろう。」

クマさん「だけどそんな話はいまどきはやらね～なあ。」

ご隠居「いや、いま世界は混とんとしているし、閉塞した時代なんだ。経済は強欲な国際金融資本家が牛耳って居り、そのために戦争やテロが起こったり、難民だけでなく悲惨な生活を強いられている人が世界中にあふれかえっているじゃあないか。彼らはグローバリズムをうたい、各

国の金融を支配し、国境を越えて好き勝手に商売ができるよう世界統一政府を作ろうなんて策謀しているんだ。」

クマさん「なんだ、話が急に変わってきたなあ。どうしてそんな話になるんだ。

世界統一政府なんてけっこうな話じゃあね〜かなア。」

ご隠居「この前も言っただろう。世界の平和を守り、世界の経済の安定のためには国際金融資本家を抑制し、システムを変えなくてはならないんだ。いまは経営者や労働者の対立よりもグローバリズム対各国の国民的利益を守る事が重要なんだ。金融資本主義や共産主義の誤りの一つに唯物主義があるんだ。唯物主義は利己主義を生み、独占主義を生み出すんだ。アメリカのハゲタカ金融資本家や中国共産党を見ればわかるだろう。そうした連中の力を削ぐためには本当の意味で人類は兄弟だ、という魂レベルでの共通の意識を持つことが大切なんだ。」

クマさん「そーいや〜なんとなくわかるような気がするけどナ〜」

ご隠居「グローバリズム、新自由主義経済を主張していまのアベノミクスなどを吹き込んでいる経済学者たちもアメリカの受け売りをしているんだ。彼らの思想は、“人生は1回キリ、完全で、純粹で、(国家にも)支配されない、規制を受けない自由放任資本主義”といい、“利己主義(エゴイズム)こそ最大の権利だ”という思想なんだ。こうした考え方で世界を支配しようというんだ。」

クマさん「えれ〜話になってきたなあ。」

ご隠居「グローバリストたちも戦争をなくすため世界統一政府を作らなくてはならないと言って国際的な会合を持っているんだ。彼らは個々の国があることが本当は邪魔なんだ。だからTPPのような国境を越えさせるような経済圏を作らせようとしているんだ。」

クマさん「えー、TPPもそういう話なのかあ。怖い話だなア。」

ご隠居「グローバリストも世界はみな兄弟、なんて言っているが実際は人類は多すぎるから戦争を巻き起こして人口を減らそう、新しい病原菌をまいて感染症を広げようと策謀しているんだ。それも武器商売になり、医薬品会社がもうかる仕組みになっているんだ。だから本当に人間がこの世において幸せに暮らせるためには、たましいの世界の存在を信じ、自己の魂を磨き、さらに高い波動を得られるよう世のため人のために生きる様にしなくてはならないんだ。人道主義の復活だよ。」

クマさん「難しい注文を言うなあ。あっしにはとてもムリだな。」

ご隠居「そんなことはないよ。クマさんの甥っ子が亡くなってクマさんもあの世のことを考える様になったんだ。それが一つの意味あることなんだ。それを考えることが生き方を考える様になり、社会の在り方を考える様になったんだろう。まず、本当のことを知りたい、そうした好奇心や探求心がグローバリストたちに騙されないようになる第一歩なんだ。」

クマさん「なるほど、甥っ子の冥福を考えているのもあっしの考える力を増やしているのかア。」

ご隠居「そうなんだよ。わかってきたね～。ついでに言うけど先日も日銀のことを言っただろう。アメリカのFRBは連邦準備制度と言うんだが、100%民間資本なんだ。だからアメリカ政府は監査もできないって言っただろう。日本銀行は政府が55%資本を出しているから総裁人事もできる。しかし実質は三井を通じてロスチャイルドが握っている。前の総裁も退任後はロスチャイルド銀行の顧問だ。だけど日本の場合には国会や政府がしっかりしていけば改善できる。問題は知性的でない国会議員が多数を占め、FRBやCFR（名誉会長デービッド・ロックフェラー）のような外交を牛耳る評議会の手先の云う事ばかり聞く特権官僚、大手マスコミが本当の情報を抑えて居るため日本の苦境はひどくなる一方だ。政府の借金の削減のため日銀は解散して、政府が金利のかからない独自の紙幣を発行すればいいんだ。もともと その前にそうした根本的解決を図れる議員を増やさなくてはならないんだがね。」

クマさん「え～、どういうことなんで～」

ご隠居「いまや世界金融危機はパンクしそうなんだ。特にドイツ銀行はGDPの15倍の負債を抱えて危ない。すでにEUは今年の1月からペイルインを発動させた。いままでの金融危機は国の資金投入で糊塗してきた。これがペイルアウトだ。今度は国民の預金を凍結して銀行を救済する方式だ。イタリアも一部預金封鎖が始まっている。中国ばかりかドイツが破綻すればEUも持たない。連鎖的にアメリカドルも破綻だ。そうなればアメリカは新通貨へ切り替えるだろう。旧ドル紙幣は10分の1になるそうさ。つまり日本の金融も破綻するってことだ。」

クマさん「またスゲ〜話になってきたなあ。あっしらはどうなるんで。」
ご隠居「だからハゲタカ国際金融資本家にだまされないようしなくてはならないんだが手遅れかも知れない。そうなれば物々交換が主となるんだろうね。いいかね、そうした世界の危機が押し寄せつつあるんだよ。私たちは魂レベルから自分をしっかり持って真実を見極めなくてはならないんだ。近くそうした大きな激動の時代が来るんだ。さいわい日本人は好奇心も知識力、民度も高いからそれは対応できるんだ。戦後の復興もそうだった。前に言った質素、勤勉、工夫は日本人の得意技だ。庶民の典型のクマさんが変われば日本は変わるんだ。あの世へ行って亡くなったお父さんに褒められるように一人の日本人としての生き方をしてみようと腹をくくれば話は簡単だ。」

クマさん「おだてともっこにゃあ 乗りたくね〜や。だけどおやじのことを言われちゃあ知らん顔もできね〜な。」

ご隠居「よ〜、いい男、待ってました。いよいよクマさんの出番だよ。」

クマさん「知らざあ言って聞かせやしょう、こちら男一匹 伊達じゃあね〜
貧乏したってウチの庭にゃあ風情があら〜 質の流れに借金トリがネをあげてさえずってら〜 立てば競輪 座ればパチンコ 歩く姿は千鳥足 待てばカイロの日よりあり ありがとうサンなら 四角はトーフ 出歯とくりゃあヤマザクラ 花（鼻）より葉（歯）が先をいく 一丁いくかね おかげ参り えらいこっちやあ w よいよいよい」

ご隠居「そうだ、その意気、鼻息だ。馬には乗ってみな、乗っちゃあいけない口車 添っていいのは女房だけ そりがあわなきやあ鞆には納まらない のるかそるかの大勝負 あの世があると思えば怖いものなし ハゲタカファンドも何のその 思い込んだら命がけ 欠けた茶碗じゃしょうがない この生涯も捨てたもんじゃアない 救う神あり 破れる紙ですくえぬ金魚 楽しくやろうよ お迎えるまで “あな面白あな楽し あなさやけ おけ”（忌部神道はやし言葉）」

(2016, 2)

<参考>

「生きがいの創造」(飯田史彦・PHP研究所)

「脳外科医が見た死後の世界」(エベン医師・youtube)

「ここまで来た『あの世』の科学」(天外伺朗・祥伝社)

「死後体験」Ⅰ～Ⅲ(坂本政道・ハート出版)

長屋談義 その16 後日談、金融危機

クマさん「せんだってば えれ〜気分で帰ったが頭がどうもコングラげえっちゃたぞ。いくつか一言で答えちまってくんね〜かな。なぜアメリカはトランプなんてのが人気なんだ。」

ご隠居「それはアメリカを牛耳っている産軍複合体や金融資本家など陰の勢力によって支配され格差が広がり困窮していることに、国民が目覚め始めたからだ。」

クマさん「2月半ばまで、シリアへ攻め込むぞってわめいていたトルコやサウジを応援していたアメリカがなぜ急にロシア側と停戦協定になったんだ。」

ご隠居「2月10日に93歳になるキッシンジャーがプーチンに会いに行ったんだ。トランプがケネディ暗殺や9・11テロの謀略を暴露することを恐れた101歳のデービッド・ロックフェラーの使いで行ったんだ。いまやアメリカの7割の国民はうすうす知っているんだが、公然と発表されたくない人間にとっては困るんだ。例のロシアへ亡命中のスノーデンの情報も握っているプーチンに、トランプは保険をかけているんだ。つまり自分が暗殺されないようにね。だからキッシンジャーが公表しないように掛け合いに行ったんだな。そして結果、シリア停戦はアメリカ側が不本意ながらロシアの主張通りとなった次第だ。」

クマさん「なぜケネディは暗殺されたんだ。9・11の謀略ってなんでイ。」

ご隠居「産軍複合体はソ連との平和共存を進めたり、金融で世界を支配するFRBを解体して政府紙幣を作ろうとしたケネディが邪魔になったんだ。またペトロダラーといって産油国を支配し、ドルをばらまき武器を売ってドルを回収していたんだが、イラクのフセインがドル決済をやめてユーロに切り替えようとしたためテロ事件を口実にフセインを殺した。9・11は企画演出をネオコン、実行犯はイスラエルのモサドという説が世界へ流布。ニューヨークのWTCビルへ自動操縦機を突っ込ませて劣化ウラン爆弾で粉碎破壊しドサクサに金塊を搬出、ペンタゴンの書類倉庫側へロケットを突っ込ませて莫大な機密費、使途不明金書

類を焼却させている。今はネット情報が発達して究明する多くの写真付きの情報を隠し通せるものではない。」

クマさん「ウクライナやシリア紛争もそうした陰の勢力の仕業と言っていたけど、ホントの狙いはなんだね。」

ご隠居「簡単に言えば世界征服さ。だけどロシア資源乗っ取りはプーチンのおかげで反撃され失敗、ウクナイナクーデターで追い詰めようとしたがこれも失敗、アメリカ国内でも製造業を中国に任せて雇用が減少、巨額の退職年金基金を株に投じて金融業は巨大になったが、高額医療費や奨学金貸付金のため中間層が没落し、大半は貧困層となってしまった。ソ連冷戦時から対抗上中国を下請けに使ってきたがこれも言うことを聞かなくなって失敗。世界的にドル支配体制が落ち目になってしまっている。唯一もくもくと言いなりになって米国債を買い、むりやり円安にして国民の生活を犠牲にしながらドル高のために貢献しているのが日本だ。」

クマさん「その日本も先日の新聞では、オバマが電話で安倍のロシア訪問を控える様に言ったんだが断ったというがどうしてかね。」

ご隠居「前回オバマと会って話したときは黙認だったと元外務省の馬淵教授は書いていた。しかし陰の勢力には目障りなんだろうね。だけどそんなことがすぐに公表されるところに今の力関係が現れてきたんだと思うね。それに安倍首相はグローバリストというよりナショナリストで、自分の代で日露平和条約締結、そして領土問題解決、さらには G7 との橋渡しを演じ、長期政権で改憲したいという野心がある。」

クマさん「さっきの話でアメリカの意向をくんでシリア侵攻を準備したトルコやサウジはどうなるんだ。」

ご隠居「トルコのエルドアン大統領は、イスラム国からの密輸原油を買い取っていたのを抑えた憲兵隊幹部や報道社幹部を逮捕、軍部が反発して国連安保理の決議がなければシリアへの軍の移動はないと声明を出した。大統領が訴追か失脚するかもしれない。サウジは国家財政が危機となり、ロシアとイランがドル以外での決済協定を結んだため、これに追随する動きも出てくるかもしれない。問題は追い詰められた過激派が不明となっている戦術核兵器などを使用してテロ恫喝する恐れがあることだ。」

クマさん「ドイツも危機だと言っていたがどうかね。」

ご隠居「日本は財務省が財政危機だといって消費税をあげさせようと必死だが、日本の負債はGDPの2.3倍くらい、しかもその国債は国内で買って保有されているし、対外債権も300兆円以上あるし埋蔵金もある。ドイツ政府は表向き無借金だがドイツ銀行は昨年1年間で9000億円の赤字、負債総額はGDPの15倍以上だ。FW問題、難民問題を抱え、政治的にも財政的にもピンチを迎えているんだ。ドイツが財政パンクとなればEUは崩壊の危機を迎えるな。」

クマさん「アメリカはいつて〜どうなるんで」

ご隠居「大統領選挙前に国家財政が行き詰り、議会の同意が得られずデフォルトとなる可能性がある。昨年は共和党の妥協があり借入枠増加でしのいだが今度は選挙前で妥協はできない。そのために大統領の特別権限の行使、オバマ紙幣（あるいは高額硬貨）の発行、ビットコインのような電子決済、ペイルイン（銀行支払停止）のための訓練、暴動対策などがされているようだ。」

クマさん「日本はどうなるんでィ。」

ご隠居「安倍首相はかねがね消費税の増税はやる、しかしリーマンショックのような重大な事件があれば考慮、と言っている。前回財務省に騙されて8%へ増税の失敗を繰り返したくないというのが本音だ。だから世界金融危機対策と称して伊勢サミットで増税見送り宣言、衆参ダブル選挙で安定多数を占めて改憲へも持ち込みたい。プーチンにもG8への復帰で恩を着せて領土問題でも有利にしたいとの思惑もある。しかしいまのプーチンにはG8にはあまり魅力は感じていないようだ。G20の方が良いと言っている。」

クマさん「ご隠居さんはどうしたらいいと思うね。」

ご隠居「もともと日本は、質素、勤勉、工夫に富んでいる国民性で貯蓄があり、政府はそれで投資をやり赤字国債まで原資にしてきたんだが、金融資本に煽られバブルを引き起こしたんだ。調整後立ち直り経済も回復し貿易収支も黒字になり円高となった。しかしデフレが問題だと言ってアベノミクスなんて新自由主義者のマネタリズムに煽られて“異次元”の金融緩和などで円安にしてハゲタカ投機家に安い円を買わせて株式投機させた。それでもうまくいかないため年金基金まで投入して株価維持をさせようとし、さらにマイナス金利まで導入させた。しかし株

価を上げたから実体経済が良くなるわけではない。金融によって利益を上げる現在の資本主義システムが崩壊しつつあるんだ。欧米ではマネーゲームによって0.1%の人間が残りの90%を収奪するようなシステムに気付き始めている人たちが運動を広げている。泰平の眠りを覚ます現代の黒船は金融破たんと言う爆弾を積んで刻一刻と近づいている様だ。これが大きな変革の時代の目覚めとなるだろう。」

クマさん「ご隠居さん、おどかしっこなしませ。それで結論と言うか今後の見通しはあるのかね〜」

ご隠居「まずドル支配体制は崩れるな。だってもうペトロマネーの柱となる原油取引の中心のロシアとイランはドル決済をやめた。中国も追随している。EUもユーロを使ってくれるのはありがたい。これだけで世界の半分はなくなる。日本がロシアの天然ガスを円で買う交渉がされている。実現すれば大変なことだ。世界中にばら撒かれていたドルがアメリカへ還流したらたちまちドル安のインフレだ。いまだってフードチケットで生活する貧困家庭が多いんだ。アメリカは市民の反乱が起こり、緊急事態法で新紙幣に切り替えるだろう。」

クマさん「なんだ、またその話かア。どうしたらいいんで。」

ご隠居「日本は現在でも多くの国の人たちからモラルをほめられている。それでもアメリカ式がいいなんていう新自由主義者、グローバリスト、国際金融資本家とつながる連中が正規採用を減らし、法人税を減らし、増税とインフレ政策で実質所得が減少し、結婚もできない貧困者が増大してしまっている。まずそうしたと連中と手を切ることだ。いま世界中をAP通信とかロイターなどがマスコミを支配して個々の事実報道はあっても真実の報道はない。ネットの世界では欧米の多数の人がFRBを廃止せよ、とかウォールストリートを占拠しようなどの運動をやっているが日本では報道されない。まず本当のを知るところから始まるんだ。クマさんもテレビはやめてパソコンで世界の動きも知るといいよ。」

クマさん「ありゃ、またそうきたか、こりゃ大変だ。じゃあゴメンなすって。」

ご隠居「ありゃ、また、逃げ足の速い奴だ。」

(2016, 3, 1)

<クイズ>

- ◎ ふつう当たっても さしても痛くないものは、
- ◎ 病気が治ると出てくるものは、
- ◎ 絵と額縁のセットで15,000円でした。
絵の価格は額縁代よりちょうど1万円高いです。
額縁の価格はいくらでしょう。

<あとがき>

- ・ “あの世”はある。そう考えた方が自分の人生の意味を深く考え、大切にすることになる。むかしの日本人は生まれ変わりを信じてきた。いまは欧米の方がそうした意識は高いそうだ。だけどあまりに現実離れの話だから、掛け合い漫才で閉めました。
- ・ 世界の金融情勢は思った以上に厳しく、これが国際金融資本の陰謀なのか、はたまた追い詰められての悪あがきなのかは不明です。いずれにしても危機的状況です。昭和21年2月16日、政府は突然銀行預金を閉鎖した。戦時国債をチャラにするためである。今度はマイナス金利の導入がまたまた2月16日だ。
- ・ 1971年8月15日、ニクソンショックでドル・金交換停止。発表時、ニクソンは「日本にツケを回すため」と発言している。敗戦記念日にだ。今度はデフォルトかな。大統領選挙前で共和党も妥協できないだろう。ドルが暴落すれば日本もパンクだ。それを理由に新紙幣に切り替えるか、取り付け騒ぎを恐れて仮想通貨を発行させる策略だという論者もいる。サンダース候補の健闘を祈ろうかな。
- ・ 政府はアベノミクスで株価をあげるために年金基金を株に投下、金融危機で大暴落だ。2月15日午後の衆議院予算委員会で「年金の運用実績が悪化すれば、給付に影響を与えるのではないか」との質問に安倍首相は、「想定利益が出なけれ

ば、当然、年金の支払いに影響する」と実にあっさり答弁。「減額につながる」ことを認めたのです。年金生活者としては悲惨な状態を予想せざるを得ません。

佐 塚 充 (葵区研屋町12)

Email: m-sazuka@po.dws.ne.jp